

# 1 黒星病対策について

## (1) 落葉処理の見直し

落葉した黒星病秋型病斑からの1次感染源である「子のう孢子」飛散は、4月から本格的に始まることが予想されます(右表)。

表 過去の黒星病孢子飛散開始日

	H30年	H29年	H28年
飛散開始日	3月27日	4月5日	4月13日

※開始日は累積飛散孢子数が全孢子数2~3%となった日

落葉処理が終了した園地でも、葉が原型のまま残っていないか再度確認をお願いします(3月末日までに)  
(今冬は、降雪、降雨が少なく、落葉の腐熟が十分進んでいない可能性があります!!)

## (2) これからの防除について

☆開花期前後の防除は、**黒星病の発生を左右する年間を通じて最も重要な防除です!!**  
☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛け、散布ムラがないように努めて下さい。(1月に配布した「農薬防除の精度向上に向けた留意点」を参考に)

回数	散布月日	薬剤名と濃度	散布量	主な対象病害虫	防除実施日(自己記入)
特別防除	3月20~22日 (萌芽~発芽期)	デランフロアブル 1,000倍	300 ℓ	黒星病、赤星病、心腐れ症(胴枯病菌)	
<p>※本防除は、昨年黒星病の発生が多かった園地に対する特別防除です。 ※防除の目的は、4月下旬から発生する「芽基部病斑」の防止です。</p>					
1	3月30~4月1日 (りんぼう脱落直前)	デランフロアブル 1,000倍	300 ℓ	黒星病、赤星病、心腐れ症(胴枯病菌)	
2	4月7~9日 (りんぼう脱落期)	ベルコートフロアブル 1,500倍 ダイアジノン水和剤 34 1,000倍	300 ℓ	黒星病 ハマキムシ類、シンクイムシ類、アブラムシ類	
<p>※りんぼうの脱落状況を十分確認して防除を実施して下さい!! 脱落が不十分のまま農薬が付着すると、脱落后農薬が付着しない組織が現れ、感染リスクが高まります。</p>					
3	4月14~16日頃 (開花直前)1分咲き	スコア顆粒水和剤 4,000倍 ベルコートフロアブル 1,500倍	300 ℓ	黒星病、赤星病 輪紋病、黒斑病、うどんこ病	
4	4月22~24日 (落花直後)	デランフロアブル 1,000倍	300 ℓ	黒星病、赤星病、心腐れ症(胴枯病菌)	
5	4月29~5月1日 (落花10日後)	マネージDF 6,000倍 トレノックスフロアブル 500倍 ハチハチフロアブル 2,000倍	300 ℓ	黒星病、赤星病、心腐れ症(胴枯病菌) ニセナシバダニ、アブラムシ類、クワコナカイガラムシ	
<p>※この時期にナシアブラムシの発生(葉を内側に巻いて加害する)が見られたら、アドマイヤー水和剤(2,000倍)を単独使用、もしくは混用する。</p>					
特	4月27日~ 5月3日頃	コンフェューザーN 150本/10a		リンゴコクモンハマキ、モモシンクイガ、ナシバダニ	

## 【重要】

- 天候等の都合により防除間隔が10日以上空かないよう十分注意して下さい。(10日以上空くと農薬の残効が切れ黒星病の感染リスクが高まります。雨天が予想される場合は、雨前散布を心掛けて下さい)
- 黒星病の芽基部病斑も1次感染源ですので、見つけ次第、摘み取って園外に持ち出して処分してください。
- 今後の生育状況や黒星病子のう胞子飛散状況によっては、防除日を変更する場合があります(その場合、速やかにお知らせします。)

## 2 開花予想について

向こう1カ月の天候は、気温が高い～かなり高い、降水量がほぼ平年並みと予想されています(3/7新潟气象台発表)。

今後の気温が平年並みに推移した場合、各品種の開花予想は右表のとおりです。

品種名	平成31年予想	
	開花始め	満開日
幸水	4月16日	4月20日
豊水	4月13日	4月16日
あきづき	4月14日	4月16日
新高	4月11日	4月14日

※今後の気温が平年並みに推移した場合

## 3 人工受粉の留意点

### (1) 受粉は晴れた暖かい日に行いましょう!

気温が低い時間帯や降雨中の人工受粉では、花粉が発芽しなかったり、めしべに付かなかつたりする恐れがあります。15℃以上の気温が3時間以上続くのを見計らって受粉を行いましょう。なお、受粉後3時間以内に降雨があった場合には受粉をやり直しましょう。

### (2) 花粉の管理はしっかりと!

貯蔵花粉を使用する場合は、その発芽率を十分確認してから使用してください(本年も貯蔵花粉の発芽調査を実施します。下記参照)

- 発芽率が70%以上あれば増量することも可能な良い花粉として扱えます。
- 発芽率が30%以下のものは発芽率の高い花粉の増量剤としてのみ使用するようにしましょう。

## 4 霜害対策

### (1) 気温の低下軽減

低温層の発生位置を出来るだけ低くするため、草生栽培園では短く刈り、棚面付近の気温低下の軽減を図って下さい。

### (2) 冷気の停滞および流れ込み防止

冷気の流れがせき止められるような位置に防風ネットなどの遮へい物があると、園内が低温になるので巻きあげて冷気の通過を促してください。また、冷気が流入してくる方向にネット等を張り、冷気の流入を防ぐよう努めてください。

### (3) 燃焼法による防止

練炭(燃焼時間8時間程度)、固形燃料(オガライト 燃焼時間1時間程度)、モミガラなど、炎やばい煙の発生が少ない燃焼材料を用いて園内の温度上昇や空気の対流促進を図りましょう。

## 5 貯蔵花粉の発芽試験を実施します

	受付月日	受付時間	受付場所	結果の報告
(旧)第1選果場管内	3月19日(火)	午前9時～10時	梨会館	受付翌日、梨会館入り口
(旧)第2選果場管内	3月20日(水)	午前9時～10時	梨会館	受付翌日、JA なのはな南部支店、(射水市は別途対応)